

(8) 近畿



近畿地域では、景気は新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、持ち直しの動きに弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

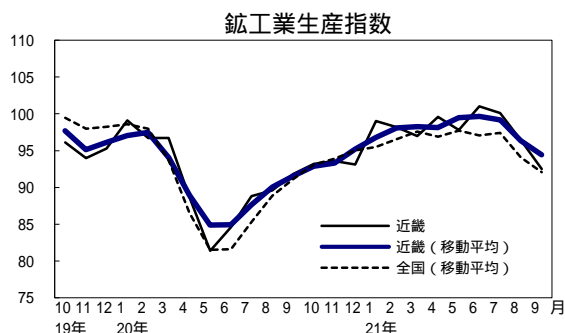
前回からの主要変更点

	前回(令和3年8月)	今回(令和3年12月)
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、持ち直しの動きに弱さがみられる
鉱工業生産	持ち直している	持ち直しに足踏みがみられる
個人消費	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる
雇用情勢	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さもみられる

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。

7 - 9月期の鉱工業生産は、電気・情報通信機械が減少したこと、輸送機械が減少したこと等により、前期比3.2%減となった。



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。
2. 全国及び近畿の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
化学	12.4	2.0	7.5	3.7	1.3	0.2
電気・情報通信機械	11.7	2.5	12.2	5.2	15.0	11.6
汎用・業務用機械	10.4	0.9	2.9	2.4	2.2	5.3
生産用機械	10.1	11.4	0.6	13.5	9.0	4.7
輸送機械	8.7	1.4	14.8	0.7	10.5	30.7
鉱工業	100.0	1.4	3.2	0.9	3.7	4.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 7 - 9月期、9月は速報値。

2. 個人消費の動向

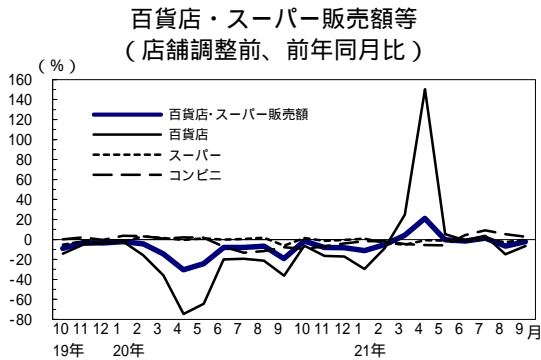
個人消費は一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

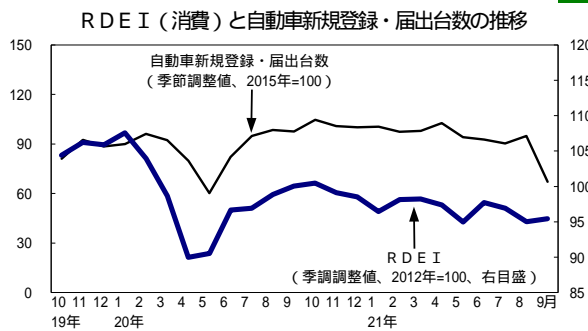
7 - 9月期は前期比0.9%減となった。月別にみると、7月は前月比0.8%減、8月は同2.0%減、9月は同0.4%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7 - 9月期は前年同期比2.5%減となった。月別にみると、7月は前年同月比1.4%増、8月は同6.6%減、9月は同2.3%減となった。



	2021年7-9月	2021年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.9	0.8	2.0	0.4
百貨店・スーパー(*2)	2.5	1.4	6.6	2.3
百貨店(*3)	5.1	3.8	14.7	6.4
スーパー(*3)	1.0	0.1	2.7	0.3
コンビニ(*3)	3.1	7.0	0.1	2.3
乗用車(*4)	14.6	5.2	2.0	31.2
(季節調整値)(*4)	12.8	2.5	5.1	29.1

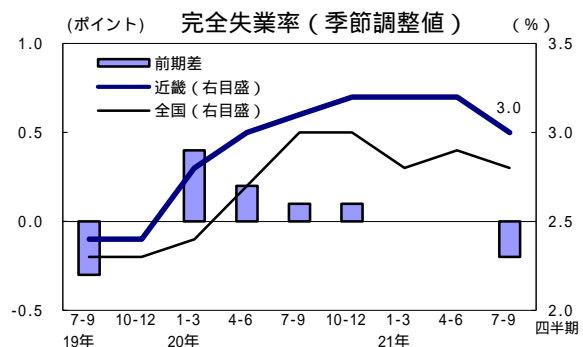
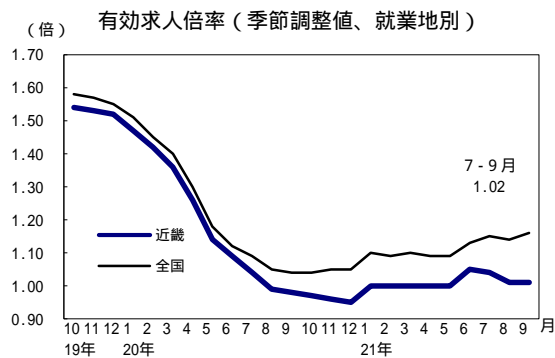


- (備考)
1. 季節調整済前期(月)比(%)
 2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。
 3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)
百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の近畿(福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)の値。
 4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)(%))

3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年10月調査) 景気判断理由の概要

8. 近畿

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	判断		判断の理由
	分野	判断	
現状	家計 動向 関連		・緊急事態宣言の解除や、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少によって人流が増え、週末を中心にガソリン販売量は増加傾向にある。その一方、このところの原油価格の高騰もあり、景気が良い方向に向かっているとは言い難い(その他専門店[ガソリンスタンド])
			・緊急事態宣言の解除に伴い、来客数が回復してきた。特に、電気料金の値上げに伴い、暖房対策として省エネタイプのアコンの販売量が伸びている(家電量販店)
			・前月から今月にかけて、コロナ禍が急速に収束に向かうなか、休業や時短営業が多かった飲食店の状況が、通常に戻りつつある。このため、これまでスーパーで獲得できていた売上が、飲食店に流れつつあると感じる(スーパー)
	企業 動向 関連		・緊急事態宣言は解除となったが、状況はこれまでと変わらない。石油価格の高騰で材料価格が値上がりしたため、販売価格の値上げ交渉を開始している(パルプ・紙・紙加工品製造業)
			・緊急事態宣言の解除が決まり、10月以降の交通関連の広告出稿が少し上向いている(広告代理店)
			・コロナ禍による半導体不足、海外からの部品の入荷遅れなどで、自動車関連業界の工場稼働率が大幅に落ちている(金属製品製造業)
	雇用 関連		・新聞求人状況は、構造的な問題もあり低空飛行が続いている。ただし、新型コロナウイルスの新規感染者数や重症者数も激減し、緊急事態宣言も解除されたため、今まで大きなダメージを受けてきた飲食や旅行、観光などの業界では、本格的な回復に備える動きが見られる(新聞社[求人広告])
			・下半期に入ってから、派遣業界は好調を維持している。1~3か月の単発とみられた案件も、ほとんど年度末まで延びそうで、下半期は好調が維持できそうである(人材派遣会社)
	その他の特徴 コメント		：外出に関してはコロナ禍の影響が薄れ、街に人が戻ってきている。前半は高い気温が影響し、購買の動きは鈍い状況であったが、後半は気温が大きく低下し、衣料品も活発に動き出している。イエナ力関連だけでなく、消費全体が活発化し始めている(百貨店) ：コロナ禍の影響が続き、販売量に回復はみられない。前年と比べれば徐々に上向いているとは感じるが、手放しでは喜べない状況である(一般小売店[菓子])
	先行き	家計 動向 関連	
			・外出の自粛で増えた家飲み需要が減る代わりに、会社への出勤が増えることで人の流れが良くなる期待はあるが、全体としては横ばいとなり、良くはならないと予想される(コンビニ)
企業 動向 関連			・今まで業務用の受注が止まっていた取引先からは、注文が入りかけているが、まだ元の水準には戻っていない(食料品製造業)
			・外食が増えているほか、旅行などの動きが出てくるなど、経済は動き始めている。今後は飲食店や旅行関係の市場が回復していく(金融業)
雇用 関連			・新型コロナウイルスの感染第6波の発生が懸念されるが、それがなければ回復に向かう(職業安定所)
その他の特徴 コメント		：予約件数だけでなく、1席当たりの予約人数も増えてきた。今後も新型コロナウイルスの感染対策を続けながら、営業していきたい(高級レストラン) ：まずは商品原価の上昇分を、販売価格に転嫁していくのが難しい(住宅販売会社)	

(DI) 現状・先行き判断DIの(近畿)推移(季節調整値)

